

大学

企画課管理用 研 — C — 2

推進主体	学長室研究支援センター
責任者	学長室部長

分類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
研	—	C	②次世代の研究者の育成のための若手研究者の支援の充実	令和4年度	令和6年度	あり(予定)

① 目的・内容

令和21年度に本学があるべき姿＝ビジョンを実現するため、次世代の研究者の育成のための若手研究者の支援を充実させる。
【学習院大学次世代若手研究者サポートプログラム】
 内閣府が公表した「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ(令和2年1月23日)」では、我が国の研究力強化の具体的な目標として「若手の研究環境の抜本的強化」が掲げられている。
 研究支援センターでは、今回、若手研究者の外部資金獲得と研究環境整備を組み合わせた取り組みとして「学習院大学次世代若手研究者サポートプログラム」を実施する。具体的には、以下の通りである。
「①研究活動スタート応募支援 ②科研費勉強会 ③科研費(若手研究・基盤研究C)応募支援」
 いずれも科研費採択により外部資金を獲得し、若手研究者の研究環境整備を目指す。また、本事業は民間URA組織であるロバストジャパン(株)との連携により実施する。
 なお本件については、令和3年度の学校長裁量枠において既に取組がスタートしている。本学において、「研究活動スタート支援」及び「科研費(若手研究)」についての採択率はかなり高い状況にある。令和4年度からは、この「研究活動スタート支援」「科研費(若手研究)」を採択された研究者が「科研費(基盤研究C)」へと移行して応募し採択をされるような支援について、「科研費(基盤研究C)」に特化した新たな勉強会や支援プログラムを組むことなど、更なるサポートの充実を模索することを中長期計画としての取組としていきたい。
 本件については、令和3年度に学校長裁量枠で取り組んだ内容を発展させて中長期計画として申請するが、令和5年度までに実施内容・実績等を自己点検、見直しを図ると共に、本事業を継続することが望ましい、との判断に至った場合には、予算面も含めてどのように継続していくか改めて検討することとする。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

サポートプログラムの利用実績を数値目標とする。具体的には以下の通りとする。
 ①研究活動スタート応募支援及び③科研費(若手・基盤C)支援: 当該年度応募者数利用率50%以上
 ②科研費勉強会: 参加者数20名以上

③ ロードマップ

年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
予定	→ → → → 制度検討	→ → → → → → → → サポートプログラム実施、 令和5年度に自己点検		→ → → → → → → → 自己点検後の新たな目標設定		→ → → → → → → →	→ → → → → → → →

④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1	プログラム利用率(①・③)	①研究活動スタート支援③科研費(若手・基C)応募者数利用率各50%以上					
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標	実施無し	利用率50%以上	利用率50%以上	利用率50%以上 (変更の場合あり)	利用率50%以上 (変更の場合あり)	利用率50%以上 (変更の場合あり)	利用率50%以上 (変更の場合あり)
実績		33%	33%				
2	プログラム利用者数(②)	②科研費勉強会: 参加者数20名以上					
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標	実施無し	20名以上	20名以上	20名以上 (変更の場合あり)	20名以上 (変更の場合あり)	20名以上 (変更の場合あり)	20名以上 (変更の場合あり)
実績		35名	集計不可				

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度 (2022年度)	①研究活動スタート応募支援 ・4月周知、レビュー支援実施 ②科研費勉強会 ・5月周知、7月実施予定 ③科研費(若手研究・基盤研究C)応募支援 ・7月周知、8月実施予定	①研究活動スタート応募支援(応募9.支援3) ②科研費勉強会(当日19、オンデマンド16) ③科研費(若手研究・基盤研究C)応募支援(応募36、支援12) 以上実施済み。今後の課題は年度末に総括予定。 ★進捗段階:「展開完了」
令和5年度 (2023年度)	①研究活動スタート応募支援 ・4月周知、レビュー支援実施 ②科研費勉強会 ・5月周知、7月実施予定 ③科研費(若手研究・基盤研究C)応募支援 ・7月周知、8月実施予定	①研究活動スタート応募支援(応募6.支援3) ②科研費勉強会(システム上集計不可、参考として研究支援センターによる科研費学内セミナーは37名参加) ③科研費(若手研究・基盤研究C)応募支援(応募40、支援13) 以上実施済み。 ★進捗段階:「展開完了」
令和6年度 (2024年度)	学校長裁量枠事業を起点としているため、本事業は令和5年度にて事業終了。以降については、物件費にて予算要求済み。 令和6年度からは別途事業計画申請済み。	
令和7年度 (2025年度)		
令和8年度 (2026年度)		
令和9年度 (2027年度)		

大学

企画課管理用 研 一 C 一 2

推進主体	学長室研究支援センター
責任者	学長室部長

分類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
研	一	C	②次世代の研究者の育成のための若手研究者の支援の充実	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

① 目的・内容

令和21年度に本学があるべき姿＝ビジョンを実現するため、次世代の研究者の育成のための若手研究者の支援を充実させる。

【文部科学省科学技術人材育成費補助事業「卓越研究員事業」導入整備計画】

研究支援センターでは、次世代の研究者の育成のために外部資金を活用した若手研究者支援の充実化を推進する。具体的には、標記「卓越研究員事業」の学内普及を推進し、専任教員採用時に同事業を併せて活用するよう学部等関係部局への告知、事業登録から採用に至るまでの継続的な支援を行う。

卓越研究員事業とは、文部科学省が選定した優秀な博士人材を研究機関が採用し、採用後の研究時間の確保など一定条件を満たすと、採用後の5年間に研究費総額1200万円(文系800万円)、研究環境整備総額1000万円が補助される事業である。文部科学省令和3年度予算において、若手研究者等の育成・活躍促進の重点事業とされており、研究支援センターにおいても卓越研究員事業の導入整備を推進する。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

卓越研究員事業を活用して採用活動を実施した学部等部局の件数を数値目標とする。(卓越研究員を採用する場合は、当該部局の判断によるため、採用数を数値目標にはしない。)

5学部を念頭に導入整備を行うため、到達目標は令和4～6年度の間を3学部とする。令和6年度に見直しを行い、新たな目標を設定する。

③ ロードマップ

年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
予定	→ → → → 制度検討	→ → → → 卓越研究員事業実施(令和6年度に見直し予定)	→ → → →	→ → → → 本計画は令和5年度以降中止	→ → → → 見直し後の新たな目標設定	→ → → →	→ → → →

④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1	卓越研究員事業実施学部数	3学部等部局において事業を実施(採用活動を実施)					
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標	実施無し	3	3	3	3 (変更の場合あり)	3 (変更の場合あり)	3 (変更の場合あり)
実績		0					
2							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
(令和4年度)	<ul style="list-style-type: none">・卓越研究員事業学部長会議周知・同事業教授会周知・各学部等採用担当者への説明・卓越研究員事業申請・採用活動開始 (事業計画は以上となる。以下は卓越研究員を採用した場合の補助金手続きである。) <ul style="list-style-type: none">・卓越研究員採用決定・卓越研究員事業補助金申請・同事業補助金入金、予算執行・同事業実施報告	
(令和5年度)		
(令和6年度)		
(令和7年度)		
(令和8年度)		
(令和9年度)		

⑥ 計画の成果・今後の方針 **※計画を中止する場合はその理由を記載のこと。**

本計画については中止することとする。

令和3年度の研究支援センター運営委員会において、卓越研究員制度についての紹介をし、各学部での活用を検討するよう周知済である。さらに、各学部長室、学部事務室に卓越研究員制度の説明書を配付済みである。一方、研究支援センターがこれ以上、教員採用に関わることはできないため、この制度の利用を研究支援センターからさらに促し、実績を積んでいくことは困難であると考え。従って、本計画自体は中止することとするが、今後も、各学部から卓越研究員制度について問い合わせがあれば、事務手続きに関しては協力できる体制を研究支援センター内で整えておく。

※計画完了時点で記載してください。 ○…必須事項 △…必要に応じて記載

○②到達目標に対する結果

○計画の中止理由(※中止する場合)

△今後の見通し・課題(通常事業化など)

△その他